



消防団サポーター事業について

静岡県長泉町消防団

1 はじめに

長泉町は、静岡県の東部、伊豆半島の基部に位置し、東西を三島市と沼津市、南北を清水町と裾野市に接している人口約43,000人の小さな町です。（東西約3.5km、南北約12km、面積26.63km²）

北は霊峰富士を仰ぎ、東に箱根連山を眺め、緑豊かな愛鷹山中から滔々^{とうとう}と湧き出でる桃沢川、町のほぼ中央を縦貫する黄瀬川など、美しい自然に囲まれています。

また、東海道新幹線三島駅、新東名高速道路長泉沼津IC、国道246号線、更には伊豆へのアクセス道路として東駿河湾環状道路が整備されるなど、広域交通網にも恵まれています。

町の施策では、「自然と都市の共生 人とまちの健康創出 いきいき長泉」を目指して「健康づくり・環境対策・子育て支援・高齢者支援」の4Kをあげ、まちづくりを進めております。

これにより、長泉町の人気は高まり、人口は増加傾向にあり、地価も上昇するなど全国でも注目される町となりました。

また、防災面におきましては、昭和53年の東海地震説から「地震防災対策強化地域」に指定以後、



長泉町内の名勝・鮎壺の滝

各地で発生している災害を教訓として防災対策を進める中、東海地震・南海地震・東南海地震や南海トラフによる巨



長泉町のシンボルマーク

大地震説、また、富士山噴火も危惧される状況もあり、大規模災害に備える必要があります。

今後、静岡県から発表された被害想定を踏まえて、町の防災体制の強化が求められており、消防団組織の充実・強化には団員の増強が喫緊の課題であります。

そんな長泉町消防団は、団本部・女性消防及び町内4個分団で構成され、定数160名、実団員133名、うち女性消防団員11名で活動しています。

団員確保には、区長会や企業への協力依頼、講習会・イベント・広報紙等を通じてのPR活動を行い、行政・企業・自治会等が一体となって取り組み、一定の成果は上げていますが、いまだ定員確保には至っていない状況です。

2 消防団サポーター事業の導入

消防団の活性化・団員確保対策及び地元商工会の活性化につながるものとして、町の商工会と連携した「消防団サポーター事業」を平成24年7月1日から始めました。

この事業のきっかけは、当町の分団長が、商工会の工業部長でもあったこともあり、山梨県南アルプス市の商工会が消防団員確保対策の一環として、消防団サポート事業を行っている

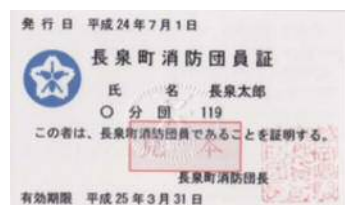
ことを、インターネットで知ったことが始まりでした。分団長は一年間ほど自分の中で案を温めていましたが、ある時の役員会に思い切って消防団サポーター事業を商工会が中心となってやってはどうかという提案をしました。しかし、一般の人にとってみれば、消防団は数あるボランティア団体の一つであり「なぜ商工会が消防団だけを支援しなければいけないのか？」という意見もありました。また、消防団に対し良いイメージを持っている人ばかりでないこともあり、本事業を商工会が賛同する一つの事業として立ち上げるためには役員の全体的同意を得ることが不可欠であるため、そこへ持っていくためにはたいへんな苦勞がありました。

ここで、力になり大きなけん引力となってくれたのが、町の防災や消防団にご理解のある役員の方々でした。

このような方々の熱いエネルギーにより、この事業は前進していくことができました。

3 制度の内容

サポート事業の内容は商工会加盟店のうち、賛同を得た店舗による、現役団員とその家族を対象とした割引サービス・粗品の提供等です。協力店にはのぼり旗、卓上ミニのぼり、ステッカーを配布、「消防団を応援する店」として明示してもらい、団員が団員証を提示することによりサービスを受けることができます。



団員証

で、会員の店舗に消防団の現状、活動内容、本事業の内容等の説明をし、協力を求めた結果、現在約50店舗の事業所の登録をいただくことがで

協力事業所を公募した当初は、10店舗程度でしたが、商工会の職員が消防団員だったこと



のぼり旗を掲示している店舗の方と消防団員

きました。

このような制度ができ、団員からの反応もたいへん好評なようですが、本音は粗品をもらうより、「ご苦勞様」と言ってもらえることが一番うれしいそうです。



卓上ののぼり旗

4 今後の展開

メディアにも、取り上げられて注目を集めている消防団サポーター事業ですが、まだまだ消防団の知名度は低く、住民に正しく理解してもらうことが課題です。本年6月に開催された静岡県消防協会駿東支部消防操法大会では、支部管内6市町の商工会に協力をいただき、グルメフェアも同時開催され、地元産品等のPRと消防団のイメージアップも図りました。

今後、消防団ブルーののぼり旗がはためき、さらに協力店舗を増やして、消防団員確保の一助、活性化の後押しになればと思います。